

権力・当局・動労革マルの組織破壊攻撃粉碎し 清算事業団・営業の仲間と共に闘う！

第一回清算事業団対策会議開催（5・23）

原職復帰までガンバルぞ！

五月二三日、第一回清算事業団対策会議及び第一回営業対策会議が開かれ、当面する取り組みを決定した。

活動家としての飛躍かちとろう

午前の清算事業団対策会議には、清算事業団へ配属された十二名の組合員と関係支部代表が出席して開かれた。

布施書記長から、四月一日以降の取り組みの経過と秋にむけた闘いの展望、具体的取り組みが提起された。

会議は活発な討論をおして、第一に、旅客、貨物会社が北海道、九州の清算事業団職員を限定して「追加募集」を実施

したが、千葉の十二名についても即時採用をかちとる。

第二に、通勤手当、夏季手当、ベアの獲得、労働条件の向上にむけて取り組み。

第三に、原職復帰までがんばりぬく立場から活動家集団としての飛躍をかちとる、そのために月一回の対策会議を開く、などを確認した。

会議は交渉委員、苦情処理委員を決めて終了した。

営業の労働者を 動労千葉の旗の下に 「営業対策会議」

午後の営業対策委員会は、各支部代表が出席して開かれた。桜沢執行委員から、今回の配転攻撃の経過と今後の配転計画の動向が明らかにされた。

動労千葉の強化・拡大を

会議では、今回の配転が、「過員」を口実として、本人の意志や労働組合の存在を無視して強行されており、動労千葉つぶしを狙った攻撃であること。そうであるならば、絶対に屈することなく、怒りをバネに、強くたくましく成長し、営業の労働者を動労千葉の旗の下に結集させていくことが確認された。

配転の狙いを粉碎せよ

また、当局が今回の三六名（駅二一名、

直営売店十五名）につづき、六月早々にも約五〇名の強制配転を計画していることから、営業対策委員会の強化がきわめて重要であることを確認した。

そのうえで、当面する取り組みとして、日常的な連絡体制を確立し、職場要求の解決をはかるとともに、月一回以上の班会議を開催し、意志統一を行っていくことを確認して終了した。

怒りをバネに 強くたくましく 闘いぬくぞ！